



# 森林ふれあい情報

平成30年 3月  
第 46 号

林野庁中部森林管理局  
木曽森林ふれあい推進センター  
〒397-0001 長野県木曽郡木曽町福島1250-7  
TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151  
E-mail:kiso-fureai@maff.go.jp

## コウヤマキの後継稚樹の育成

コウヤマキは日本固有の常緑針葉樹で、高野山に多くみられることからその名に由来するといわれ、一科一属一種の極めて特異な樹種です。

用途は主に建築、器具などで、水に強く腐りにくい特徴から、古くから風呂桶や船舶等にも使われてきました。

木曽谷地域でのコウヤマキの生育箇所は限られていますが、「城山史跡の森」の遊歩道の沿線には群をなして生育している箇所があります。

平成19年、城山地区における自然再生に関する現地検討を踏まえ、コウヤマキの後継樹の育成、保護を目的として生育地周辺での整備等を実施することとし、翌20年の調査地（プロット）等の設定、21～22年度には生育の阻害要因と考えられたホオノキ、リョウブ等の下木処理を行いました。

プロットの設定は、下木処理を実施した箇所に3プロット（1×1m）、前生樹が既に生育し、下木処理を行わなかった箇所のうち前生樹多・前生樹少で各1プロットを設定し、21年から稚幼樹の生長調査を継続して行っています。



コウヤマキ



コウヤマキの稚樹

今年度の調査では、5プロット合計で45個体となり、調査開始から約2倍と増加傾向を示しています。また、下木処理を行った箇所（プロット2～4）では約3倍と、対象区（プロット1，5）より上回っています（図-1）。

また、稚樹高では各プロットとも3倍程度の大きさとなり、順調な生長を示しています（図-2）。

さらに、今年度からは他の植生についても調査を行い、プロット1及び5ではコメツガが生育していたことに加え、プロット5では常緑低木のソヨゴが多数生育していました。プロット2～4ではコメツガ、ヒノキ、サワラが発生し、2～3割の樹種構成となっていました（図-3）。

調査開始から8年が経過し、下木を処理したことで発芽促進の効果は示唆されてきたところですが、生長量では顕著な差異は見受けられない状況となっています。また、他の植生が混在する中で、コウヤマキの生長がどのように推移していくか、引き続き経過観察を行っていきたいと考えています。

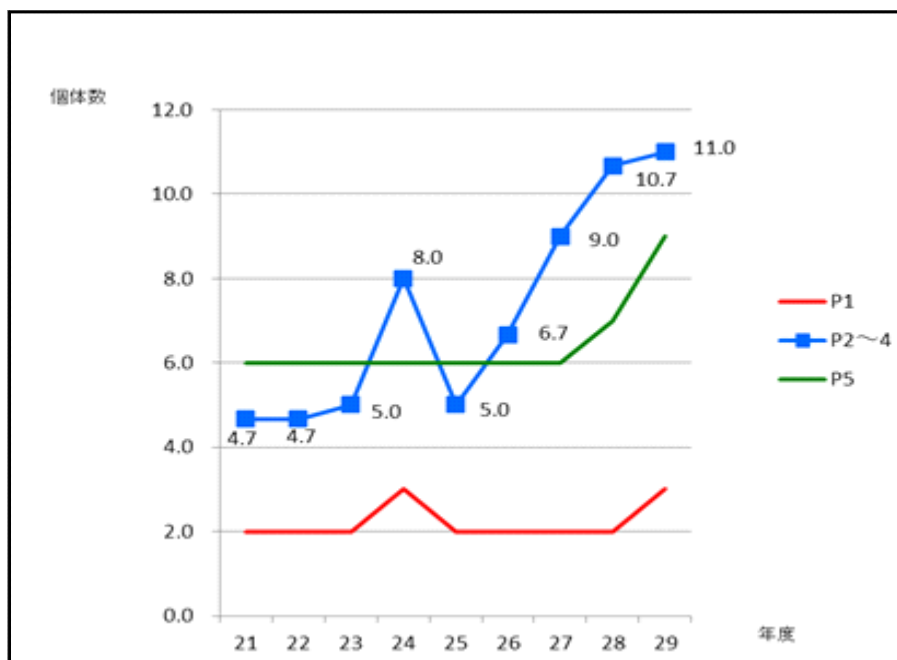


図-1 個体数の推移

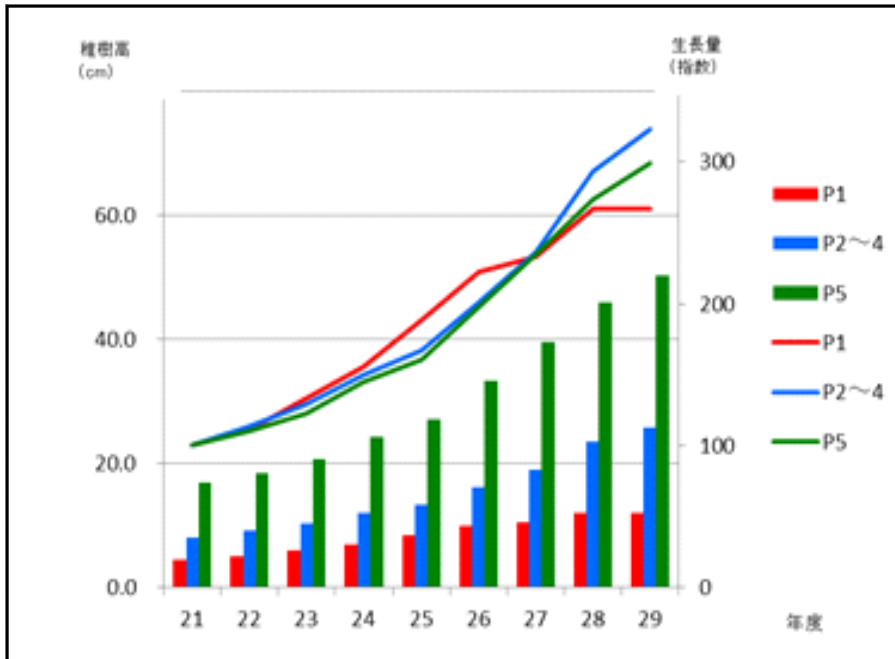


図-2 生長量の推移

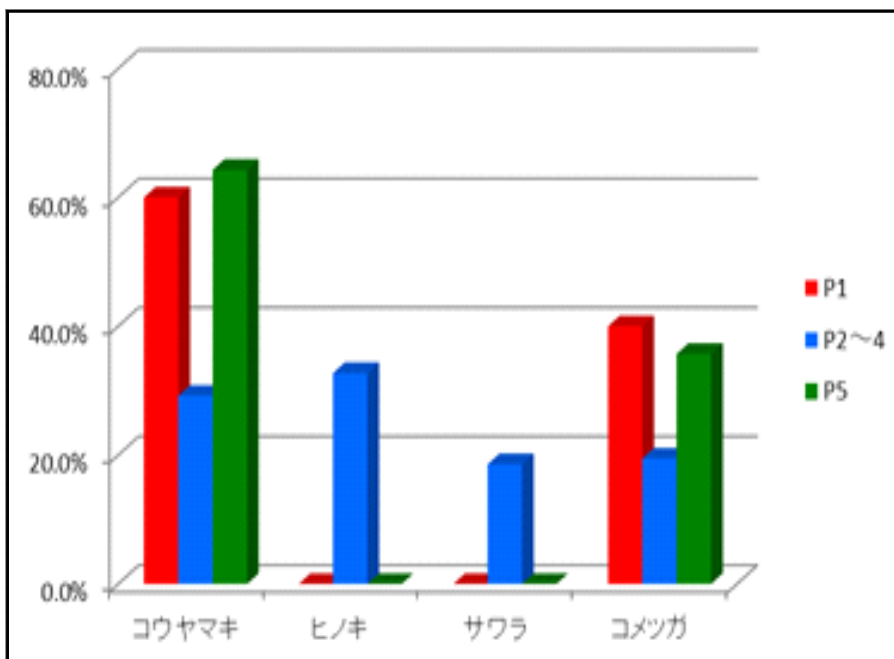


図-3 プロットの樹種割合

## //// //// 国有林野事業業務研究発表会 林野庁官賞受賞 //// ////

平成29年11月30日（木）～12月1日（金）に林野庁で開催された平成29年度国有林野事業業務研究発表会において、「木曾谷支援の取組について」と題して御嶽山噴火以降低迷している木曾谷への復興支援を目的として、「木曾川下流域の中京圏との交流イベント」「木曾谷復興支援ツアー」「木曾地域の観光協会等と連携したパズルラリーの実施」による観光客誘致の一助となる取組について発表しました。発表結果は森林ふれあい部門7課題の中において、地域連携による活動等が評価され、林野庁長官賞（最優秀賞）をいただき、昨年度の中部森林技術交流発表会での局長優秀賞に続く受賞となりました。



中部森林技術交流発表会の様子



### 第4四半期の活動及び行事等

月	日	活動内容
1	10	カラマツ林業等研究発表会(塩尻市)
	30~31	中部森林技術交流発表会(長野市)
2	21	長野林政協議会木曾谷流域部会(木曾町)
	27	森林ボランティア・NPO連絡推進会議実行委員会(下諏訪町)
	28	木曾谷の野生獣害対策講演会(木曾町)
3	6	「木曾悠久の森」管理委員会(上松町)
	7	第2回「木曾悠久の森」写真コンテスト審査会(上松町)
	9	森林・林業体験交流促進対策第2回検討委員会(王滝村)
	19	城山史跡の森倶楽部総会(木曾町)



「木曾悠久の森」写真コンテスト審査会の様子